

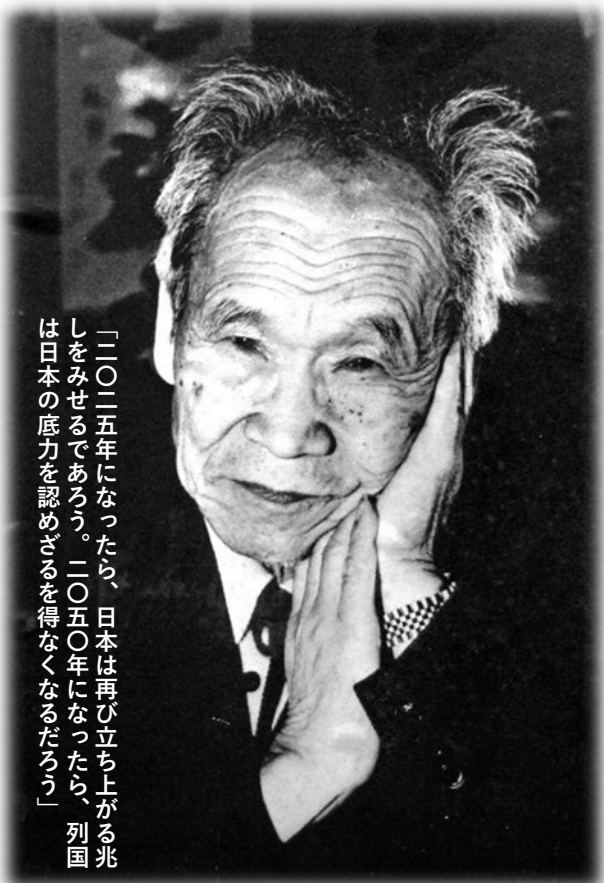
人間も、金についての親の苦勞が分かりかけて、始めて稚氣を脱する。随ってそれまでは結局、幼稚園の延長に過ぎぬものといえる。

森信三先生一語千鈞より

再生

山又

人



「二〇二五年になったら、日本は再び立ち上がる兆しをみせるであろう。二〇五〇年になったら、列国は日本の底力を認めざるを得なくなるだろう」

再生の題字（森廸彦様提供）は、森信三先生の直筆です。

# 父親人間学入門

森 信三先生 講述

実践人福岡仁風読書会 第一一〇回 九月六日  
場所：仁風庵

―父として・人間として―

## 二十 日本民族の運命と教育

### 島国日本

前章においては、いささか宗教的な問題の核心にふれるような話に深入りしたように思われますが、しかしこれもいわば自然のなりゆきともいえそうで、わたくしのように一代賭けて自分の生き方の根源を求めて、哲学を学び宗教をもとめてきた者にとっては、いずれかの章でこの問題に触れたいと思っていたからであります。そこで次にはひとつ観点をかえて、日本民族の運命について考えてみたいと思うのであります。さて、この日本という国を考える上で一バンに見のがすことの出来ないのは、島国だということでありましょう。海を距ててアジア大陸に接近しつつ、四面海に囲まれた島国性を無視して日本の歴史も文化も論ずることは出来ないと思います。日本が島国なるが故に、他国の侵略をうけず何とかこれに抗しえて、徳川三百年の鎖国が保たれたといえますが、もしこれが陸続きであつたらたちまち他国の侵入をうけて、朝鮮民族の辿った運命とほぼ同種のものとなっていたでありましょう。

次に島国性の特徴として、皮膚感覚が鋭敏で、一たび外来文化に接触しますと、その吸収同化の力は抜群でありまして、儒教や仏教の外来文化は申すに及ばず、明治の開国後わずか百年にして、根本的に異質な西洋文化をこれほどまでに摂取し消化した民族は、われらの民族において他に見出し得ないといえましょう。

なお島国性の特徴として、そもそも島国というものは一種の変形的な円とも言えるわけでありまして、即ち円の中心を求めるようで、日本民族の歴史を見ても、いわば円の中心として皇室の存在を見のがすことの出来ないのは、この求心性の特質によるものと申せましょう。思えば敗戦後三十数年を経た今日においても、皇室が安泰に存続し、しかも一般国民の敬愛をうけているのは、これは天皇のご人徳によることは申すまでもないことですが、島国性に由来する求心的民族なるが故と申せましょう。とにかくこ

んにち、政治の実中心ならぬ虚中心としての皇室の存続はわれわれにとって最深の幸せであり、これこそ日本民族にとって欠くことの出来ない中心敬崇の心情性のあらわれと申せましょう。

### 東西文化の融合

さて、日本民族の特質について忘れてはならぬことは、西洋の合理主義に対してその心情性にあると申せましょう。こえは遠く西洋の遊牧民族であるのに反し、東洋が古来農耕民族であることに端を発すると言えましょう。遊牧民族が流浪の旅をつづけて防禦・闘争を第一とするに反し、農耕民族は決まった土地に定住して、これを保持・存続することを第一とした関係上、もともと西洋民族にくらべて和を重んずる民族であつたと言えますでしょう。

ところが今日、西洋の合理主義・論理主義の影響をうけて、もともと情的な民族が論理一辺倒に傾くことの無理が反省されつつある現状であります。もともと人間の意識活動を三つにわけて知・情・意といわれていますが、知・情・意という三種の精神活動の内でも、情がすべての精神活動の根元であります。それというものは情の一面の純化であり、意は情の実現力を意味するものであります。随って情の稀薄化が精神活動の貧困と行きづまりを意味するともいえましょう。

話はやや脇道に外れましたが、とにかく東洋人種、とりわけ日本民族は、古来心情の豊かな民族なのであります。そしてこれは氣候が比較的温順であつて、しかも四季にわかれ、山川草木の自然に恵まれたその環境にもよるものかと思われまします。ところで今日、「東西文化の融合」ということが叫ばれています、その掛け橋となり、そしてその融合の縮図を世界に提供し得る民族は、われわれ日本民族を他にしては見られぬのではないでしようか。

これは文字一つを例にとってみても、欧米人が東洋文化を摂取吸収する上には大きな困難が予想されるがゆえであります。とにかく日本民族は、一敗地にまみれたりとは言え、そのいちはい復興ぶりに加えて、高度経済成長をなしとげ、今や先進国として世界の注目を浴びるに到ったことは、虚心にこれを見ましても、民族に秘められている驚くべき潜在的エネルギーに眼を見張らざるを得ないのであります。

しかしそれだけに、またあらゆる面においてそこには幾多の歪みを生じ、その一例として公害問題などを惹き起こしたわけですが、これはひとり身体的欠陥を将来するのみならず、日本人特有の美質の上にも少なからぬ公害を与えたということは、多くの識者の指摘される通りであります。ここにも「物盛んなれば必ず衰う」という「易」の哲理は厳然たるもので、「宇宙の大法」の一顕現として必然的帰結と申せましょう。そしてその一端が、こんにち社会問題としても注目の校内暴力や家庭内暴力の頻発の一因をなすともいえましょう。それというのもこれらの事象は、何よりも心情性の貧困をもの語るものであり、今や、日本人は変質した、と言われてもいたし方ないのであります。

## 教育の原点

このように教育の荒廃をみるに到り、教育の再建が大いに叫ばれるようになったわけですが、しからばどこに教育の正常化の着手点を見出すかとなると、その方途を明示し得るものは意外に少ないのであります。現在のところ現状の分析・批判のみが多くて、教育学者と称せられる人々から、一つの対策的処方箋なりとも明示せられないのは、実に無責任きわまりと申す他ないであります。

そこでわたたくしは次の三つを提言したいのであります。

第一に、教育の基本として「躰」の徹底を重視したいのであります。そのしつけの問題の重要性については、これまであらゆる機会に述べて来ましたが、とりわけ第一集「家庭教育の二十一カ条」に詳説しておりますので一読頂くことにし、今その概略をのべますと、(一)朝のアイサツの必ず出来る子にすること、(二)呼ばれたら必ず「ハイ」と言える子にすること、(三)ハキモノを脱いだら必ず揃え、立ったらず椅子を机に入れること、この三カ条をもってわたたくしは「しつけの三原則」と申しております。この躰け教育によって、まず人間を軌道にの

せることが可能であり、これは家庭教育・学校教育の如何を問わず、これが人間教育の最基盤と思うからであります。しかもわたたくしは、この躰けはとりわけ家庭において、少なくとも小学校入学以前に躰けますと案外に容易であります。しかしたとえその適期をすぎた小・中学生ならびに高校・大学生においても、人間としてのこの三大基本は、何らかの方法で必ずや躰けねばならぬと思います。しかしこのうちの「朝のアイサツ」一つをとってみても、幼童期をすぎたわが子にしつけることは実に容易でなく、それには親たり教師たるものが、まず呼び水をうることとが何より大事ではなからうかと思うのです。礼儀としては下級者から先に上級者にアイサツするのがタテマエであります。今日のように礼儀の乱れた時代においては、上・下を問わず心ある人から先にアイサツすることが、より大切ではないかと思われれます。勤務先においても、願わくば自らすすんで後進社員や職員に、自分から先にアイサツをする心がけこそ望ましいと思われれます。

第二に心情性の醸成であります。これは一般には情操教育と称せられるのですが、これもまた実際には容易なことではなく、これは結局親たり教師たる人の魂の呼応と感化による他ないのであります。親自身・教師自身が自ら人間的情操を養い、いかに心温き人間になるかどうか、その如何に由ると言えましょう。その一法として、接する子どもたちの長所や美点を発見することの名人になることが何よりで、叱ることよりホメることに重点をおき、九つホメて一つ叱るのではなおホメ方が足りないということを心に銘記すべきだと思えます。なお今日、心情性の面で特筆すべきは、先祖供養の念が、次第に日本民族に復活しつつあるのを見て、日本民族の血流の中に、あらためて心情性が目覚めつつあるのを痛感するのであります。こういう点からも、とにかく日本民族はバランス感覚のすぐれた民族であり、復元力の卓れた民族と言えらると思えます。

心温は復元の第一

人



## 第二章 掃除が会社を変える

「他者への配慮ができる」社風

人から、

「イエローハットさんの社風はどんなものですか」

と尋ねられたら、私は、

「ひとこと言えば、他者への配慮ができる会社です」

と答えます。手前味噌ではありますが、それが長い間、私の望んでいたことであり、私自身が三十年、四十年と掃除を続けてきて、ようやく自分の足を固めることができたと自負しているところでもあります。

私がイエローハットの前身である会社を興した当時は、私が掃除をするのを手伝ってくれる社員は誰もいませんでした。それが、掃除を続けて十年経ったら、社員が手伝ってくれるようになりました。二十年経ったころには、多くの社員が、会社のまわりを掃除するようになったのです。

イエローハットが今の場所に移る前は、東京都の大田区に本社を構えていました。そのころから、社員は会社のまわりを駅のほうまで掃除していたのですが、その場所から今の場所に移るときに、地域の方々から、

「ここにずっといてほしい」

と言っていたきました。これは本当に嬉しいことで、

「やれやれ、やっとどこかに行ってくれる」

と思われるようなことをしてこなかった、という自信にもなりました。

今も昔も、会社のまわりの掃除をして、とくにどこからお金がもらえるということはありません。しかし朝、社員が掃除をしている姿を地域の人や、訪れたお客様はかならず見ているのです。

地域の人たちだけではありません。これまで、社員旅行に出かければ、バスガイドさんに、

「ここまできれいにバスを使う団体ははじめてです」

と言われ、飲食の時間や場所が限られているはずの会社の研修所に行ってもと言われ、飲食の時間や場所が限られているはずの会社の研修所に行っても、「イエローハットさんなら、どこで食事をしていただいても構いませんよ」と言われます。イエローハットの社員は、汚したところを掃除するのがどれだけたいへんかを身をもつて知っているため、出かけた先で、何かを汚したり散らかしたりしません。食事をすれば、食べ残しや箸などゴミは種類別にまとめ、お皿は片づけやすいように寄せておき、テーブルの上はきれいに拭きます。出前をとれば、器はすべてきれいに洗って返します。

他人の痛みを知っているからこそ、そこに配慮できる。そんな心が育まれて、今のイエローハットがあると思っています。

ゴミの徹底分別は回収する人のため

現在は、会社の周辺二・五キロくらいの範囲を掃除しています。それはただ掃くだけではなく、周辺のゴミはすべていったん会社を持って帰ってきて、資源になるものごととんまで分別しています。

たとえば空き缶なら全部洗って、中にタバコの吸い殻などが入っていたら、それはそれで分け、缶はアルミ缶とスチール缶に分け、専用の道具でつぶして容積を小さくしています。落ち葉や枯れ枝は近くの公園の一角をお借りして木枠を設置し、そこへ入れていつて水をかけ、堆肥にする場所をつくっています。

私も自宅から、野菜の皮や芯など火の通っていない生ゴミは持ってきてそこに投入しています。生ゴミとして出せば、わずかでも焼却するエネルギーが必要になります。

こうして細かく分けていくと、本当のゴミはわずかなものです。また、朝の掃除ではコンビニエンスストアやスーパーマーケットでもらうポリ袋をゴミ袋として使いますが、これも使い終わったら洗って乾かしておき、再利用します。

日本一きれいな博多駅・福岡の街に！

第 382 回

# 博多駅 早朝清掃

毎月 **8** 日 午前6時15分～

【第一回】平成5年12月8日開催

福岡実践人・JR九州博多駅  
精華女子高等学校・福岡掃除に学ぶ会

 ハウスメイト



第382回 博多駅早朝清掃 32年目

9月8日(月曜日) 46名参加



博多駅早朝清掃 382回、自転車で行った靴磨き日本一周中の靴磨き職人さんが博多駅早朝清掃に参加していただきました。Sさんは、靴磨きトラベラーという活動で38ヵ国訪れて、日本を含め6,000足の靴を磨かれた、とんでもない職人さんでした。ご縁を繋いでいただいたSさん有難うございます。





今回は一年生と二人進行役



博多駅のシンボル時計台がオレンジに！



靴磨き協会からたくさん参加



千葉からT会長さんサプライズ参加







大正村掃除に学ぶ会、明智小中学校での最後の年次大会に、こうして多くの道友の皆さまと共に参加できましたこと、心より感謝申し上げます。

私がこうして掃除に学ぶ道を歩ませていただくきっかけとなったのは、他でもない、大正村掃除に学ぶ会との出会いでした。福岡掃除に学ぶ会は、この大正村のひと月後に始まりました。そして初代代表・帆足は、この地に幾度となく足を運び、田中代表との深い絆の中で学び、支えられながら、福岡の地にその志を根付かせてまいりました。

帆足先生が病床に伏した際も、田中代表ご夫妻は遠路はるばる訪ねてくださり、静かに、温かく、帆足先生の手を握ってくださいました。あのときのまなざし、言葉にできない感謝を、私は今でも忘れることができません。

帆足が常々語っていた言葉があります。

**「掃除とは、自分の心の汚れに気づくこと。」**

**そしてその汚れを、人のせいにせず、自分で拭い続けること。」**

大正村の大会は、まさにその心を、私たちに教え続けてくれた場でした。子どもたちと磨いた便器、地域の方々と交わしたあいさつ、一緒に雑巾を絞った仲間たち。すべてが、私たちの人生の師です。

今日こうして、田中代表のもとでの最後の大会に参加できたことは、言葉にできないほどの喜びであり、寂しさでもあります。しかし、私たちはこのバトンを、次へ、また次へと渡していく使命があります。

福岡でも、11月8日・9日に、32周年の年次大会を迎えます。田中代表にもご臨席いただき、博多駅での**第384回早朝清掃**には、日本各地から多くの道友が集います。帆足先生が命をかけて育ててきたこの会を、これからも心で磨き続けたいと思います。

大正村掃除に学ぶ会の皆さま、そして田中代表、本当に長い間お世話になりました。

また、明智小中学校から実践の場所を移し、進化した大会が始まりますことを祈念しています。

大正村の同志道友の皆さまに、心からの敬意と感謝を申し上げ、福岡よりさらに磨きをかけて、この学びを広げてまいります。

本当に、ありがとうございました。

福岡掃除に学ぶ会 世話人：富吉袈裟右衛門 拝



2025.9.21 於：戒壇院作務に学ぶ会 第28回／T67回



2025.9.27 於：住吉神社便教会 T106回

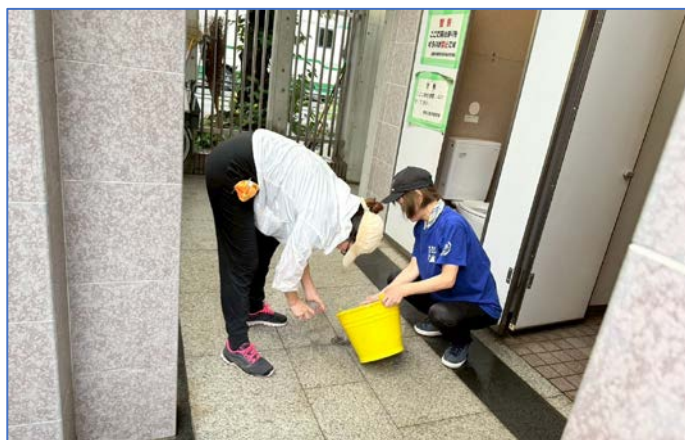




## 2025.9.28 於：福岡空港ミリオン清掃 /T88回



## 2025.9.20 於：冷泉公園トイレ磨き T167回



### 冷泉公園で掃除を続ける道友の皆さまへ

毎月のお掃除、本当にありがとうございます。かつて落書きと壊れた扉で荒れていた冷泉公園のトイレが、今や地域の方々に感謝される「祈りの場所」となったのは、皆さま一人ひとりの静かで、けれど力強い実践の積み重ねによるものです。

あのとき、ライオンズクラブの世界大会をきっかけに、一念発起された初代I氏の想い。

「100回までは一人でも」と覚悟を決め、ただ黙々と磨き続けた日々。

その一つひとつが、見えない種となって大地に蒔かれ、今こうして、167回という歩みへとつながっています。タクシーの運転手さんからの「おはよう！いつもありがとう！」の言葉は、地域との心の架け橋そのもの。人の心も、街の景色も、道に学び、道を磨く皆さまの背中から変わっていったのだと、心から敬意を表します。

掃除とは、ただ場所をきれいにするだけの行いではありません。

そこには、「無言の奉仕」「誰も見ていなくても続ける力」「見返りを求めぬ心」があり、それこそが掃除道の真髄。

帆足先生がおっしゃっていた「種まきを続けてください」という言葉の意味を、冷泉公園での実践がまさに体現しています。

きっと、掃除の神様・鍵山秀三郎先生、そして帆足先生も、天から微笑みながら、皆さまの背中をそっと押してくださっていることでしょう。

どうか、これからもその尊い灯火を次の世代へとつないでください。

冷泉公園の清掃活動は、もはや一つの「文化」であり、「祈り」であり、「希望」です。

心より、感謝と敬意を込めて。

福岡掃除に学ぶ会 世話人：富吉袈裟右衛門 拝



～古き良き時代の日本再生～

# とんぼろ

Instagram



@RAKUNOUJIN1962

＝ ＝ ＝ 心を耕し、生を拓く ＝ ＝ ＝

＝ 心



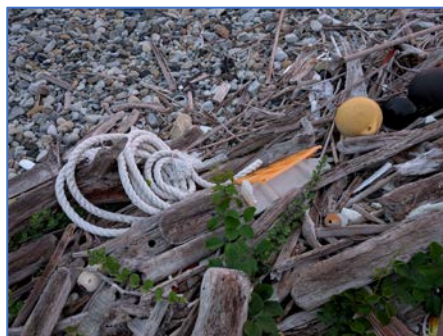


# とんぼろ掃除に学ぶ会／薩摩川内市 in長目の浜

## 第32回 長目の浜海岸清掃 《楽農人／とんぼろ海掃隊》



後援



甑島を古き良き時代に戻そうと島の同志と協働



甑島「長目の浜」の海岸再生は夢ではない。確かな志のもと、島民とも連携協働をし、行政とも協議しながら一步步前進善進をしている。

今回、田之尻展望所から貝池方向への2,400mをクリーンアップする計画、実現のために動き出しました。



	10月						11月					12月			
日		8	11 ～ 12	18	19	19		8	8 ～ 9	16	16		8	21	21
曜		水		土	日	日		土		日	日		月	日	日
行事活動名	長目の浜海岸清掃 第33回	博多駅早朝清掃 第383回	山形に学ぶ会 令和7年度年次大会	奈良掃除に学ぶ会 年次大会	太宰府観世音寺 トイレ掃除 第3回	戒壇院早朝作務 第28回	長目の浜海岸清掃 第34回	博多駅早朝清掃 第384回 32周年	第45回 福岡実践人研修会	太宰府観世音寺 トイレ掃除 第4回	戒壇院早朝作務 第29回	長目の浜海岸清掃 第35回	博多駅早朝清掃 第385回	太宰府観世音寺 トイレ掃除 第5回	戒壇院早朝作務 第30回
場所	鹿児島県薩摩川内市	博多駅博多口	出羽三山	奈良県	太宰府市観世音寺内	太宰府市戒壇院境内	鹿児島県薩摩川内市	博多駅博多口	クリオコート博多	太宰府市観世音寺内	太宰府市戒壇院境内	鹿児島県薩摩川内市	博多駅博多口	太宰府市観世音寺内	太宰府市戒壇院境内
開始時刻	6時30分	6時15分			5時30分	6時30分	6時30分	6時15分		5時30分	6時30分	6時30分	6時15分	5時30分	6時30分
運営団体	楽農人 とんぼろ海掃除隊	福岡掃除に学ぶ会	山形掃除に学ぶ会	奈良掃除に学ぶ会	太宰府作務に学ぶ会		楽農人 とんぼろ海掃除隊	福岡掃除に学ぶ会	福岡実践人研修 福岡掃除に学ぶ会	太宰府作務に学ぶ会		楽農人 とんぼろ海掃除隊	福岡掃除に学ぶ会		太宰府作務に学ぶ会



根っ子の  
友は  
ありがたき  
哉

上記行事予定表は、富吉の参加予定の行事を掲載させていただいています。  
その他、活動しているお掃除実践もごございますので、事務局にお問い合わせください。

発行人(編集人)富吉 製装右衛門

◇NPO法人福岡実践人 福岡掃除に学ぶ会

Lineグループ運営:福岡清爽クラブ

◇福岡仁風読書会

◇NPO法人楽農人 とんぼろ掃除に学ぶ会

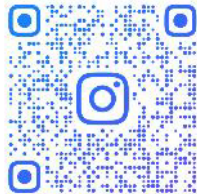
〈合同事務局〉〒811-2247

福岡県糟屋郡志免町向ヶ丘2丁目4番3号 《仁風庵》

TEL 092-931-8155 FAX 092-931-8120

E-mail fukusoukai@souji.link (掃除)

こしき仁風庵:鹿児島県薩摩川内市里町里90番地



@F\_JISSENJIN

